

龍谷大学農学部 食料農業システム学科の活動

しがのふるさと支え合いプロジェクト事例報告

vol.4

龍谷大学の歴史は古く、1639年に西本願寺に設けられた「学寮」にはじまり、浄土真宗の精神を建学の精神として教育活動に取り組んできた。2015年には、国内外を問わず、喫緊の課題となっている「食」や「農」に関する問題の解決をしていくため、農学部を新しく創立している。中でも、食料農業システム学科は「食」と「農」を支える地域と経済の仕組みを学ぶ学科として地域と協働した取り組みを展開してきた。

地域との繋がりを大事に

龍谷大学食料農業システム学科の淡路教授より、この地区に関わるようになった経緯を聞いた。「農学部を設立してから2年目、東近江市旧愛東町からお声がかかりました。農村でフィールドワークできる地域を探していたところ、直売所あいとうマーガレットステーションを有する旧愛東町からのアプローチがきっかけで、活動がスタートした。普段学生さんは教室での学びがほとんどなので、実際に農村地域を体験することが少ない。だからこそ地域とつながって、そこから生まれる想いや発想を大事にしてほしいという教授の想いから現場での学びを積極的に取り入れているようだ。色々な農家や農業に触れていく中で、「幻の銘酒『百済寺樽』復活プロジェクト」という地域活動を知り、百済寺地域に関わることも多くなったそうだ。「同じ愛東町地区内にも関わらず、百済寺地域が位置する山手の方は傾斜地が多く、農業生産的に不利な場所であることは学生もすぐ感じたようです。特に驚いたのは、野生のサルが多さですね。大変な中でも地域をなんとかしたいという思いが、みなさんと活動してみたいと思いました。」

思いが形となった商品を

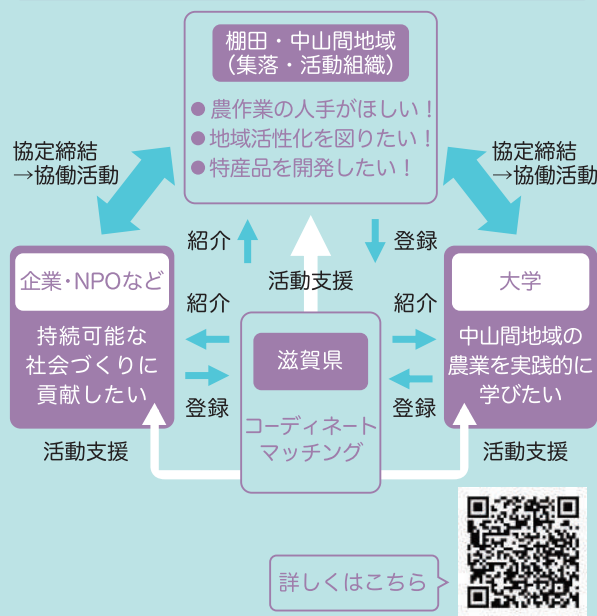
2018年に地域のまちづくりや特産品・サービスの販売拡大を目指して百済寺ブランド認証協議会が新たに立ち上がった。このタイミングで、しがのふるさと支え合いプロジェクトを知り、協議会と学科の間で「百済寺ブランド認証と推進」や「都市農村交流活動」に関する協定を締結することになった。地域からは百済寺にちなんだ商品開発を望まれている。「百済寺地域の歴史の重みを感じ取り、若者の斬新なアイデアをどのように融合させていくかを考えて行って欲しいと思っています。」つながりを大事にする教授や学生たちの温かさが感じられた。きっと、地域の思いや学生たちの思いが形となった商品ができていくのであろう。これからうまくいく百済寺ブランドの商品に期待が高まった。



「龍谷大学農学部」
食料農業システム学科
淡路 和則 氏



しがのふるさと支え合いプロジェクト





百済寺ブランド 認証協議会の紹介



東近江市



百済寺ブランド認証協議会

百済寺ブランド認証協議会(東近江市)は、天台宗湖東三山の一つで紅葉や新緑の名所として有名な釈迦山百済寺と百済寺地域が共存共栄するまちづくり及び特産品・サービスの販売拡大を図るため、2018年8月に設立された。協議会には、釈迦山百済寺と百済寺地域の5集落(大萩町、上山町、百済寺本町、百済寺町、北坂町)、JA湖東、一般財団法人愛の田園振興公社などが参画している。



「百済寺ブランド認証協議会」
事務局 辰己 裕之 氏

推古14(606)年に創建された釈迦山百済寺とともに歩んできた百済寺地域は「百済寺郷」と呼ばれている。百済寺郷は寺領でもあったので日常的に寺の田畑や山林の維持管理に従事してきた。現在でも百済寺の信徒総代を選出する地域であり、寺の年中行事にも深く関わっている。長い歴史文化を有する百済寺郷は農業が盛んな地域でもあるが、近年は人口減少や農業の後継者問題が顕著になっている。ただ、集落ごとに農業生産グループの取り組みや、地域活性化の取り組みが盛んに行われており、2016年には地域おこし協力隊員が百済寺地域に2名駐在し、地域と連携して特産品づくりや農業生産などに取り組んでいる。2017年には『幻の銘酒「百済寺樽」復活プロジェクト』がはじまり、織田信長の焼き討ちにより途絶えていた僧坊酒「百済寺樽」が44年ぶりに復活した。2017年には地域の農業者を中心に百済寺酒米生産組合も発足している。清酒「百済寺樽」は、醸造元である喜多酒造をはじめ道の駅「マーガレットステーション」や地域の酒販店、紅葉シーズンの百済寺境内で販売され、いずれの店でも完売するというヒット商品になった。このように最大の地域資源である百済寺を生かした取り組みが百済寺郷全体に広がっていくようにとの思いで、地域ブランドに関する勉強会が行われており、これがブランド認証協議会の設立につながった。

ええなあ百済寺郷



寺と地域、生産者のWIN-WINをめざして設立された百済寺ブランド認証協議会の事務局はJA湖東の辰己さんが務めている。「百済寺とともに歩んできた百済寺郷を「ええなあ」と思ってもらいたいです。地域の良い商品やサービスを多くの方に提供したい、という思いから「ええなあ百済寺郷」というブランドネームにしました。」と話していた。百済寺ブランドの認証は、はじまったばかりで、百済寺樽に続くヒット商品ができるための支援が欠かせないという。龍谷大学との提携を機に若い皆さんの発想を生かした商品やサービスが期待されている。

お問い合わせ先

滋賀県農政水産部農村振興課 地域資源活用推進室

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号
TEL: 077-528-3963

詳しくは
こちら

